

教職員アンケート

達成度

【生きてはたらく知】 重点取組分野1	1	主体的・対話的に学ぶ姿を育成するために、児童の実態に合わせて「グループワークや思考ツールを活用して授業改善」に取り組んだ。	A	A
	2	主体的・対話的に学ぶ姿を育成するために、「振り返りを活用」して児童の問題意識の把握や課題設定に努めた。	A	
	3	教科の系統性や他教科のつながりを意識し、「学習内容と関連付けて指導（カリマネを実践）」した。	A	
	4	一人ひとりの学習の力に合わせて、「工夫して指導」した。	A	
	5	学校で学んだことが、家庭での復習や予習、及び、自主的な学習に「つながるように指導」した。	A	
【豊かな心】 重点取組分野2	6	「道徳の授業」では、学級やグループで話し合うことを通して、考えを広げたり深めたりできるように指導した。	A	A
	7	「社会的スキル横浜プログラム」を活用して自己肯定感、他者受容を高めるよう指導した。	B	
	8	確かな人権感覚・意識を高めるために「人権を意識して指導」した。	A	
	9	互いのよさを認め合い、助け合おうとする仲間意識を育むことを意識「異学年活動」を指導した。	A	
【健やかな体】 重点取組分野3	10	児童の実態を把握し、体育の授業改善・休み時間・体育行事・一校一実践を通して、「自ら運動に親しむ態度育成」に努めた。	A	B
	11	児童が「生活習慣を見直せるように、授業改善や栄養職員・専門家との連携」に努めた。	B	
【キャリア教育】 重点取組分野4	12	児童ができるようになったことを認識できるように「自分づくりパスポートを活用」した。	B	B
	13	児童が「自主的に」取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団の「課題を解決するよう」、実行委員やクラブ、委員会の指導をした。	A	
【ESD教育】 重点取組分野5	14	「楽しい外国語活動・外国語科」になるように努めた。	B	B
	15	「多様性を認める」ことを意識して授業した。	A	
	16	「課題に気付き解決しようとする」力を育成するように授業をした。	A	
	17	プログラミングに関わる授業を実施した。	B	
	18	情報モラルに関わる授業を実施した。（道徳、LINE社講習を含む）	A	
【特別支援】 重点取組分野6	19	児童が安心・安全に過ごせるように「スタンダード」を指導した。	A	A
	20	家庭や関係機関と連携して、児童のよいところや困り感を共有し、児童が学校生活を安心して過ごせるように努めた。	A	
【応への対応】 重点取組分野7	21	日ごろから児童理解に努めるとともに、定期的なアンケートや児童・保護者面談を行い、「いじめを未然に防止しよう」とした。	A	A
	22	学年や専任、担当部署や管理職と相談して、「組織的に」児童や保護者に対応した。	A	

重点 取組 分野 8 【信頼 される 学校 づくり】	23	自身の担当する教室や廊下、特別教室、保健室、給食室、事務室などの「安全点検」を月1回行い、安全な環境づくりに努めた。	A	B
	24	「避難訓練や防災教室」では、自分の役割を自覚し、児童・職員の安全の為に行動した。	A	
	25	学校だよりやHP、懇談会などを活用して、学校や学年、担当部署の取組を地域や保護者に「発信した」。	B	
	26	幼稚園、学年間、中学校などと「連携」を図りながら、児童理解や系統を生かした指導、健康管理、食育・衛生管理、経理・事務処理に努めた。	B	
重点 取組 分野 9 【人材 育成・ 組織 運営 (働き 方)】	27	自身の「キャリアステージに応じた目標設定」し、達成のために、「具体的に取り組んだ」。(研修等も含む)	A	B
	28	初任者研修やメンター研、コーチング研修や不審者侵入対応研修、今でしょう会議など校内の研修を通して、自身に生かすことができた。	A	
	29	自身の部署で、計画的に「物品の購入や処分」、「整理や整備」を行った。	B	
	30	効果的で効率の良い運営となるように考え、行動した。(改善シート、ミライム、資料の準備・周知、事前読み、連携等)	A	
	31	児童の情報交換や教材研究、健康管理、食育・衛生管理、経理・事務処理など、学年内や担当する職員間で「情報共有」したり「検討」したりできた。	A	
	32	時間外に働くことが昨年度より減った。	D	
学連 協校 議運 1 0 組 分 野	33	保護者や地域の人との「協働」による取組は、学校の教育水準の向上に効果があったと思う。	A	A

33項目中24項目(約7割)がAでした。

重点取組分野1「生きてはたらく知」、6「児童理解・指導／特別支援教育」、7「いじめへの対応」、10「地域連携 学校運営協議会」の4分野において10割がAでした。他の重点取組分野においても過半数がAでした。

このことから、教職員が中期学校経営方針及び学校教育目標「い・ま・じ・ゆ・く」を理解し同じ方向に向かって概ね取り組んだと言えそうです。

Bであったところを見ると、「社会的スキル横浜プログラムを活用して自己肯定感、他者受容を高め」ようとしたものの実感を得にくいのではないかと考えられます。しかし児童アンケートの結果を見ると、他者とのかかわりの中で思いやりの心が成長している姿が見られるので、今後も継続して意図的な社会スキルプログラムに取り組んでいきます。

「連携」「自分づくりパスポート」「外国語」「プログラミング」「発信」がBなので、どのようにさらに充実させていくかを考え改善する必要があります。

「時間外に働くことが昨年度より減った」と感じている教職員が約4割で、約6割があまりそう思わない、思わないと答えていることから、働き方改革を進めていく必要を感じます。更なる組織改革や日課表の工夫などを計画していきます。